

本調査研究はモーターボート競走公益資金
による財団法人日本船舶振興会の補助金を受けて
実施したものです。

東九州中核ポート化を目指した大分港の 海上輸送網整備のあり方に関する調査研究

－ 報 告 書 －

平成7年3月

財団法人 九州海運振興センター

は し が き

本報告書は、当センターが『財団法人 日本船舶振興会』の平成5年度から2カ年にわたる補助事業として実施した「東九州中核ポート化を目指した大分港の海上輸送網整備のあり方に関する調査研究」の平成6年度研究成果を最終報告としてとりまとめたものであります。

大分港は、昭和39年に大分地区が新産業都市の指定を受けて以来、近代工業港として発展してきました。また、海上旅客輸送においては、四国・関西方面にフェリー航路が開設され、その輸送実績は年々増加傾向にあります。

大分港を取り巻く環境は、九州横断自動車道長崎大分線や北大道路の全通を間近に控える一方、全国的にはトラックによる幹線輸送を鉄道や海運へシフトするモーダルシフトの推進が求められていることから、大分港には、陸上交通体系と海上交通体系の結節する東九州の拠点港としての整備が期待されています。

また、新たな地域活性化の方策として、太平洋新国土軸構想（豊予海峡ルート）や東九州軸活性化プランが推進されており、地理的に両者の交差するところに位置する大分港は、これらの結節点としての役割を果たすことが求められています。

こうしたことから、大分港の東九州中核ポート化を検討するにあたり、昨年度は国内輸送に焦点を当て、大分港を中心とした海上輸送網のあり方について提案し、これを前提とした貨物・旅客の将来需要を検討しました。さらに海上輸送網形成の戦略を検討し、その実現の為に大分港が備えるべき機能・施設等について提案しました。

今年度は国際輸送面について物流及び航路両面の実態から航路開設の可能性を検討した上で、前年度に行った国内輸送面での検討結果と融合させ、東九州中核ポートの将来像、整備コンセプト、整備方針、海上輸送網整備の戦略と施策を提案しました。

また、今回の阪神大震災において多大なる被害を受けられたみなさまにお見舞い申し上げますと共に、神戸港関係各位には調査に当たりまして大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。

尚、本文中神戸港あるいは神戸市に関わる記述につきましては震災以前の情報に基づいておりますことをあらかじめお断り申し上げます。

終わりにになりましたが、本調査をとりまとめるにあたって終始ご指導、ご協力を頂きました大分大学田原栄一教授はじめ委員各位、関係官公庁並びに調査にご協力頂きました関係の方々に、改めて御礼申し上げます。

平成7年3月

財団法人 九州海運振興センター
会長 邑本義一

『東九州中核ポート化を目指した大分港の海上輸送網整備のあり方に関する調査研究』

委員名簿

(順不同 敬称略)

委員長	田原 栄一	大分大学経済学部教授
委員	堀川 洋	第四港湾建設局企画課長
〃	船越 寛三	三井物産(株)九州支社運輸部長
〃	南 昇 (福岡正躬)	日本郵船(株)九州支店長
〃	山田 裕敏 (渡辺 豊)	大阪商船三井船舶(株)九州・門司支店長
〃	香椎 裕人	日本開発銀行福岡支店次長
〃	秋月 睦男	大分商工会議所副会頭
〃	金木 彰弥 (成富信光)	大分県倉庫協会会長
〃	疋田 功	大分県港運協会会長
〃	増井 義己	大分県海運組合会長
〃	足立 驥	(株)大分県トラック協会会長
〃	前田 徳男	(株)ダイヤモンドフェリー常務取締役
〃	木内 喜美男	大分県企画総室長
〃	矢野 善章 (永石晏嗣)	〃 土木建築部長
〃	大黒 伊勢夫 (惟村正弘)	九州運輸局企画部長
〃	山口 迪	〃 運航部長
幹事	二見 哲夫	大分県企画総室総合交通対策局長
〃	廣田 善治 (寛 隆夫)	〃 土木建築部港湾課長
〃	谷 繹義	九州運輸局大分海運支局長
〃	福島 満哉 (三宅 徹)	〃 企画部貨物流通企画課長
事務局	吉村 悦男	(株)九州海運振興センター調査役
作業協力	鉄本 哲彦	(株)三和総合研究所主任研究員
〃	金岡 省吾	〃 研究員
〃	原田 昌彦	〃 〃
〃	安井 緒抄美	〃 〃

【目 次】

序 章 調査の概要

1 調査の背景と目的	1
2 調査項目とその内容	3
3 調査方法	6
4 調査のフロー	7

第1章 大分県を中心とした国際輸送の実態把握

1 国際輸送面からみた大分港の概要と周辺環境	9
2 関連構想・計画の概要と進捗状況	20
3 九州における外貿コンテナ貨物流動の実態	24
4 外貿定期コンテナ航路の実態と寄港条件	36
5 外貿定期コンテナ航路開設に向けた大分港の課題	53

第2章 国際輸送面における東九州中核ポートのあり方

1 交通環境の変化と大分港の位置づけ	55
2 国際輸送面からみた東九州中核ポートとしての大分港の将来像	57
3 整備コンセプト・整備方針の策定	61
4 国際海上輸送網の形成可能性と航路開設に向けた戦略	65

第3章 大分港における東九州中核ポートのあり方

1 東九州中核ポートとしての大分港の位置づけと将来像	79
2 将来像の実現に向けた整備コンセプトと整備方針	84
3 整備すべき航路網とターゲット品目	86
4 海上輸送網整備のシナリオの想定	91
5 海上輸送網整備のための戦略とハード・ソフト施策	94

第4章 大分港の東九州中核ポート化の課題と推進方策

資料編

1 アンケート調査結果	(1)
2 ヒアリング調査結果	(31)
3 事例研究結果	(39)

【図 表 目 次】

序 章 調査の概要

図0-1 外貿定期貨物におけるコンテナ化率の推移	1
--------------------------------	---

第1章 大分県を中心とした国際輸送の実態把握

図1-1 大分港の地理的特性	9
表1-1 大分港の係留施設の概況（公共ふ頭）	13
表1-2 大分港のポートサービスの概況	14
表1-3 大分港の使用料率（抜粋）	14
図1-2 大分港の輸出入貨物量の推移	15
表1-4 大分港の公共・専用ふ頭別輸出入貨物取扱状況（平成3年）	15
表1-5 九州域内の高速道路網の整備状況（大分港関連分）	16
図1-3 大分港を基点とした高速道路網	17
表1-6 九州および周辺の港湾における外貿定期コンテナ航路の 開設状況	18
図1-4 大分港を取り巻く外貿定期コンテナ航路の概況	19
図1-5 日本企業のアジア展開	24
表1-7 九州企業の海外進出	25
図1-6 九州における品目別輸出入額の推移	26
図1-7 外貿定期（ライナー）貨物量の推移とコンテナ化の進展	27
図1-8 外貿定期貨物における地域別コンテナ化率の推移	27
表1-8 九州における外貿コンテナ貨物の輸出入量の推移 （1ヵ月値）	28
表1-9 外貿コンテナ貨物の品目別輸出入量（1ヵ月値）	29
図1-9 主要企業の立地状況と各県の主要輸出品目	30
表1-10 外貿コンテナ貨物の仕向・仕出地域別輸出入量（1ヵ月値）	31
表1-11 九州発着貨物の利用港湾（1ヵ月値）	32
表1-12 北九州港・博多港のコンテナ取扱量（平成4年年間値）	33
表1-13 北九州港・博多港における外貿コンテナ貨物の地域別輸出入量 （1ヵ月値）	33
表1-14 利用港湾の選択状況	34
図1-10 利用港湾の選択理由	35
図1-11 九州における外貿コンテナ貨物の流動構造のイメージ	35
表1-15 航路別フルコンテナ船就航船腹量（平成4年末）	36
図1-12 わが国の航路別外貿コンテナ貨物量の航路別シェアの推移	37

表1-16 わが国の外貿定期コンテナ航路の寄港航路数 （平成5年10月）	38
表1-17 世界の港別コンテナ取扱量（上位10港）	39
図1-13 地方港湾における航路ネットワークの現状	40
図1-14 九州を中心とする外貿コンテナ航路ネットワークのイメージ	41
表1-18 9大港の寄港航路数・外貿コンテナ貨物量および背後圏	42
表1-19 9大港におけるコンテナターミナルの概況	43
表1-20 地方港湾のコンテナ貨物量と寄港航路数	44
表1-21 地方港湾におけるコンテナターミナルの概況	46
表1-22 航路開設に必要な貨物量	51
表1-23 九州各県で生産・消費されるコンテナ貨物量（1ヵ月値）	53
第2章 国際輸送面における東九州中核ポートのあり方	
図2-1 大分港を取り巻く交通環境	56
図2-2 大分港の利用において想定されるメリット	58
図2-3 大分港の利用のために求められる施設・機能等	59
図2-4 大分港までのアクセス条件	62
図2-5 大分港利用の可能性	63
図2-6 今後の輸出入の見通し	65
図2-7 輸出入の見通しに対する理由	65
図2-8 取引相手地域として有望な地域	66
図2-9 大分港に開設が求められる航路	66
図2-10 大分港において利用が想定される相手地域	67
図2-11 大分港において利用が想定される品目	68
表2-1 大分県で生産・消費されるコンテナ貨物量（1ヵ月値）	69
表2-2 大分・宮崎両県で生産・消費されるコンテナ貨物量 （1ヵ月値）	70
第3章 大分港における東九州中核ポートのあり方	
図3-1 九州の物流・流通構造の変革	79
図3-2 大分県の産業発展段階のイメージ	80
図3-3 大分港を取り巻く経済文化交流圏	81
表3-1 需要面からみた航路開設の可能性	86
表3-2 整備すべき航路網とそのねらい	88
表3-3 主なターゲット品目	89
表3-4 ベースカーゴの想定	90

詳細は当センターへお問合せ下さい

(財)九州運輸振興センター

電話 : 092-451-0469

e-mail : info@kyushu-transport.or.jp